

ISSN 1343-4837

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第19集

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第22集

改 田 神 母 遺 跡

後神母地区

トカリ山地区

新改中部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003. 12

土佐山田町教育委員会

改田神母遺跡

後神母地区
トカリ山地区

新改中部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003. 12

土佐山田町教育委員会

序 文

本県最大の穀倉地帯を誇る香長平野の東端に位置する土佐山田町は、物部川の悠久の流れに抱かれ、古くから稲作農業が盛んに行なわれてきました。しかし、近年の農業構造改善に伴い、農業経営は複雑化、多様化してきております。そうした状況のなか、本町におきましても土地改良事業や圃場整備事業が断続的に実施されております。

平成8年度から、新改中部地区において県営圃場整備が行なわれるようになり、当教育委員会では、事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を平成7年度より実施し、旧石器時代から近世に至る貴重な資料が得られています。このたび調査報告書として刊行することになりました本書が、今後の研究や、文化財保護思想の普及の一助となり、先人の残した歴史遺産を将来守り伝えていく契機となれば幸です。

最後になりましたが、発掘調査に際しては、高知県中央東耕地事務所、新改中部土地改良、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター、地元関係者の方々をはじめ、発掘調査から整理報告書に至るまでにご協力いただきました皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

平成15年12月1日

土佐山田町教育委員会

教育長 原 初 恵

目 次

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	4
改田神母遺跡後神母地区	
第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法	8
1. 調査に至る経過	8
2. 調査の方法	8
第Ⅲ章 遺構と遺物	10
第Ⅳ章 総括	19
改田神母遺跡トカリ山地区	
第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法	34
1. 調査に至る経過	34
2. 調査の方法	34
第Ⅲ章 遺構と遺物	35
第Ⅳ章 総括	38
附編 長岡郡登利郷について	

挿図目次

図1 土佐山田町位置図	3
図2 周辺の遺跡分布図	6
図3 改田神母遺跡位置図	7

表目次

表1 周辺の遺跡分布表	6
-------------------	---

後神母地区

●挿図目次

図4 改田神母遺跡後神母地区位置図	8
図5 後神母地区調査対象区域位置図	9
図6 後神母地区柵場整備施工図と調査区位置図	9
図7 改田神母遺跡後神母地区遺構平面図	13
図8 出土遺物実測図（その1）	17
図9 出土遺物実測図（その2）	18

●写真図版目次

写真1 柵場整備前の遺跡周辺航空写真	
写真2 遺構1	
写真3 遺構2	
写真4 遺物1	
写真5 遺物2	
写真6 遺物3	
写真7 遺物4	

●表目次

表1 改田遺跡後神母地区遺物観察表	15
-------------------------	----

トカリ山地区

●挿図目次

図10 改田神母遺跡トカリ山地区位置図	35
図11 トカリ山地区調査対象区域位置図	36
図12 トカリ山地区柵場整備施工図と調査区位置図	36
図13 トカリ山地区遺構平面図	37
図14 土佐山田町新改地区小字図	38

●写真図版目次

写真8 遺構3	
---------------	--

改田神母遺跡

後神母地区

新改西部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

例言

1. 本書は、土佐山田町教育委員会が平成6年度に実施した新改西部地区県営圃場整備事業に伴う改田神母遺跡発掘調査報告書である。
2. 改田神母遺跡は、高知県香美郡土佐山田町上改田字後神母18番地他に所在する。
3. 当該地の発掘調査は、平成6年9月14日から同年12月16日、実施調査面積1,000m²である。引き続き資料整理・報告書作成を平成15年度にかけて行った。
4. 調査体制は以下のとおりである。

調査主体 土佐山田町教育委員会

調査事務 土佐山田町教育委員会

平成15年度

教育長 原 初恵

社会教育課長 山崎 泰広

調査事務 小林 麻由

調査担当 中山 泰弘

5. 発掘調査にあたっては、地元上改田地区の方々、土佐山田町文化財保護審議会、新改西部土地改良区、高知県中央東耕地事務所、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターの協力を得た。また、発掘調査・遺物整理・図面作成作業にあたって、下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

現場作業員 大塚俊明、今井春恵、田村香代子、佐々木龍男、竹崎芳子、山本花子、山下厚子、井上郁雄、

山崎政子、山本冴子、池知誠男、小松一仁、池 宣弘、吉川 競

整理作業員 伊藤 仁、中村千代、岡林 光、竹崎寛寿、井上博恵、研川英征、宗石祥一、高橋加奈

6. 本書の執筆は中山が行なった。

7. 出土遺物及び調査資料については、土佐山田町教育委員会が保管している。尚、遺物についての注記は、「94-30YKU」を使用する。

8. 遺構の名称については、SB(掘立柱建物)、ST(竪穴状遺構)、SK(土壤)、SD(溝状遺構)、SE(井戸)、SX(性格不明土壤)、P(柱穴又はピット)を使用する。

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

土佐山田町は高知県の中央東寄りに位置し、県下第3位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡物部村、剣山山系の白髪山(1,770m)の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古来阿波國への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には河岸段丘が発達し⁽¹⁾、土佐山田町で流路を南に変える。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を縱断する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川両岸には鏡野⁽²⁾、山田野⁽³⁾と言われる古期扇状地の砂礫層から成る洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北部を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約5km連なる。洪積中期以降に形成された比較的連續性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。標高は扇頂部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇端部の南国市後免町付近では10m～15mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から5m内外の標高を持ち、台地の間に新期扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。洪積台地には旧石器時代の遺跡は発見されていないが物部川河岸段丘両岸の山麓部⁽⁴⁾、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部⁽⁵⁾で確認されている。また縄文時代の遺跡もほぼ同じ位置に所在する⁽⁶⁾。新期扇状地から沖積平野にかけての大地には県下最大の遺跡群、田村遺跡群(縄文時代～近世)⁽⁷⁾を始め大篠遺跡(弥生時代)⁽⁸⁾が分布する。また、条里制地割の遺構が広く認められるが、旧物部川は洪水氾濫をたびたび繰り返しており条里制地割の乱れた地域も多く、旧流路も數本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に南西端は扇状地性低地の粗粒性冲積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湿地帯を形成している。土壤は多湿黒ボク土壤であり、層の厚さは20cm～50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が進んでいたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面上にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷士屋敷が散在し、散村的景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水田地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、葉タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も增加してきている。町域面積の70%を森林地帯で占め、林業が盛んで良材を多く産出する。工業は、地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流部と香長平野の接点に立地した谷口集落でもある。台地面はかつて開発の主体となつた郷士屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もその景観の名残がみられる。台地面の長軸(北東～南西方向)には沿う方向でJR土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

註

- (1)『南国市史』 上巻 南国市教育委員会 1979
- (2)『野市町史』 上巻 野市町教育委員会 1992
- (3)『土佐山田町史』 土佐山田町教育委員会 1979
- (4) 佐野猪目山からは石核、剥片などが表面採集されている。

- (5)新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。
(6)新改開キル遺跡などがあげられる。
(7)「田村遺跡群 高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」第1分冊～第15分冊 1986 高知県教育委員会
(8)註(1)に同じ

卷之六

「上佐山田町史」上佐山田町教育委員会 1979

「角川 日本地名大辞典 39高知県」 角川書店 1986



図1 土佐山田町位置図

2. 歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、人々と人の営みを台地に刻みついている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡⁽¹⁾の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積物ではあるがチャート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡⁽²⁾と非常によく似ている。続く縄文時代では、新改川の河岸段丘上に立地する開キ丸遺跡⁽³⁾より早期押型文土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡⁽⁴⁾からは、晩期の土壤4基と突帶文土器が出土している。北部山間部に所在する飼古屋岩陰遺跡⁽⁵⁾からは早期押型文土器、厚手無文の葛島式土器、中期の船元II式土器、後期の彦崎K II式土器とともに多量のサヌカイト製の石鏃が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上に林田シタノチ遺跡⁽⁶⁾が存在するが、ここではビット状遺構から後期初頭の中津式土器が出土している。

弥生時代では前期に属する遺跡の確認には至っておらず、今のところ中期後半に位置づけられる龍河洞窟穴遺跡⁽⁷⁾が最古である。この遺跡は全山石灰岩でできた三宝山(322m)の中腹に開口した洞穴遺跡で、昭和8年に遺跡の部分が発見され、翌9年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は3室からなり、出土遺物は凹線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄鏃、石錘、有孔鹿角製品、貝輪、骨製管玉、壇壙製勾玉等の装身具、貝類、獸骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキII式土器が出土している。龍河洞窟穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、予岳遺跡⁽⁸⁾、雪ヶ峰遺跡⁽⁹⁾、影山遺跡⁽¹⁰⁾がある。中期後半に属する遺跡は多く、原遺跡⁽¹¹⁾、原南遺跡⁽¹²⁾からは竪穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘立柱建物跡等、集落を構成していた遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡⁽¹³⁾が存在する。これらの土器群はヒビノキI～ヒビノキIII式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると同時に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。

弥生時代も後期となると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表される後期後半に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡⁽¹⁴⁾では、弥生時代後期後半の竪穴住居跡が5棟検出されており、この内1棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡⁽¹⁵⁾が存在する。ここからは竪穴住居跡5棟が検出され、土器と共に多量の鉄鏃が出土している。

古墳時代には、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心に知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳⁽¹⁶⁾は、5世紀末から6世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周溝からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで遡ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地区とその周辺に所在する須江古窯群を挙げができる。奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数カ所確認されている。窯跡の中には北江廃寺跡⁽¹⁷⁾の瓦を焼成したタンガン遺跡⁽¹⁸⁾や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡⁽¹⁹⁾も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡⁽²⁰⁾、須江北遺跡⁽²¹⁾からは官衙的掘立柱建物跡や多量の須恵器、土師器が出土している。特に須恵器には湾曲した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区はその西方2kmに土佐国府を控えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条里制遺構⁽²²⁾を残している。また、「大領」・「田倉」・「宮毛田」等の地名があり、周辺からは古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡の推定値⁽²³⁾と考えられる。

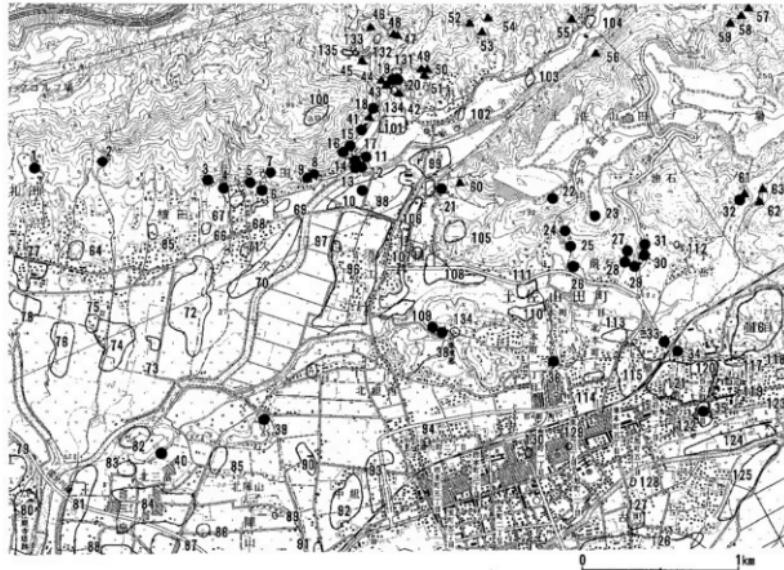
中世では、土佐戦国七雄に數えられる山田氏⁽²⁴⁾が建久4年(1193)に土佐國へ入国以来勢力をのばし、楠目の山田城を本拠⁽²⁵⁾に領主制支配を行なうが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

近世にはいり野中兼山⁽²⁶⁾による山田堰、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町⁽²⁷⁾として香美郡北部の山間地帯と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城城下町の経済圏域と

して発展し、今日に至る。

註

- (1) 西谷道勝「土佐山田史談」第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題(VI)」2000
- (2)『美谷衝遺跡Ⅰ』(財)高知県文化財活用・収蔵文化財センター 1999
- (3)『開キ丸塚跡 新改中部地区埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 2002
- (4) 小山田遺跡 註1と同じ
- (5)『飼古屋跡遺跡発掘調査報告書』日本道路公団・高知県教育委員会 1983
- (6)『林田シタノ遺跡Ⅱ 岩村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1993
- (7)『鷹河廻』高知県教育委員会 1959
- (8)『土佐山田町史』P52 土佐山田町教育委員会 1979
- (9) 註8と同じP52
- (10) 註8と同じP52
- (11)「公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡－」高知県教育委員会 1982
「公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－原遺跡Ⅱ－」第25集 高知県教育委員会 1984
- (12)『原南遺跡発掘調査報告書』高知県文化財局 1991
- (13)『ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会 1977
- (14)『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第8集) 土佐山田町教育委員会 1990
- (15)『林田遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1985
- (16)『伏原大塚古墳』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集) 土佐山田町教育委員会 1993
- (17) 註8と同じ
- (18)『高知県文化財調査報告書第16集 高知県北江廟寺跡』高知県教育委員会 1970
『高知県文化財調査報告書第33集 北江庵寺跡発掘調査概報』高知県教育委員会 1991
- (19) 註8と同じ
- (20)『新改東谷古窯跡群発掘調査』土佐山田町教育委員会 1978
- (21)『土佐山田北部遺跡群－山田北部県営は場整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書－』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集)
- (22) 註21と同じ
- (23)岡本健児「土佐神道考古学5」「土佐史談」第120号
- (24) 註8と同じP217
- (25) 註8と同じP248
- (26) 註8と同じP354
- (27) 註8と同じP365



番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	中山田古墳	古墳	35	伏原大塚古墳	古墳	69	東山田遺跡	弥生・古墳	103	三反山古墳跡	平安
2	高松古墳	・	36	八上寺西古墳	・	70	改神母道遺跡	古墳～平安	104	入野南遺跡	平安・中世
3	植田古墳群	・	37	前山11・12号古墳	・	71	久次土器城跡	中世	105	植村城跡	中世
4	西久佐古墳	・	38	前山2号古墳	・	72	ハザマノ遺跡	古墳～平安	106	植カドリ遺跡	弥生・古墳
5	次郎ヶ谷西古墳	・	39	眞山古墳	・	73	御ヶ田城跡	・	107	植南山遺跡	平安・中世
6	次郎ヶ谷古墳	・	40	一森山古墳	・	74	泉ヶ内遺跡	・	108	西ケラドリ遺跡	弥生・近世
7	田村古墳	・	41	西ノ内古墳	・	75	沖ノノイ城跡	中世	109	モジラツリ遺跡	・
8	亀ヶ谷1号古墳	・	42	小山11号古墳	古墳・秦良	76	白須羅城跡	古墳～平安	110	山ノ側大遺跡	中世
9	亀ヶ谷2号古墳	・	43	小山2号古墳	・	77	中ノノ堅城跡	中世	111	植キヤキ遺跡	・
10	須江口カアナ古墳	・	44	小山3号古墳	・	78	前瀬遺跡	平安～中世	112	山田氏代墓所	・
11	新改古墳	・	45	西11・2・3号古墳	奈良	79	北江山遺跡	中世	113	メウカヒ島跡	弥生・中世
12	新改2号古墳	・	46	東谷1号古墳	奈良・平安	80	北江庄子跡	飛鳥	114	良谷前城跡	古墳～平安
13	新改3号古墳	・	47	東谷2号古墳	・	81	ノリノ遺跡	弥生～平安	115	伏原遺跡	弥生・平安
14	新改4号古墳	・	48	東谷3号古墳	・	82	南神母道跡	古墳	116	独目城跡	中世
15	椎山1号古墳	・	49	林ノ谷1号古墳	・	83	三島城跡	中世	117	ひびの木大河内遺跡	弥生～近世
16	椎山2号古墳	・	50	林ノ谷2号古墳	・	84	三島遺跡	弥生～平安	118	出所社遺跡	弥生～中世
17	西ノ内1号古墳	・	51	大谷1号古墳	・	85	三町遺跡	古墳～中世	119	ひびの木サウジ遺跡	弥生・古墳
18	西ノ内2号古墳	・	52	大谷2号古墳	・	86	白山遺跡	古墳～平安	120	ひびの木の神母道跡	弥生～中世
19	小山1号古墳	・	53	大谷3号古墳	・	87	水浦遺跡	弥生～平安	121	ひびの木サウジ遺跡	弥生～近世
20	小山2号古墳	・	54	大谷4号古墳	・	88	福永遺跡	奈良～中世	122	大塚遺跡	・
21	タンガン古墳	・	55	八ノ谷遺跡	平安	89	有光北山遺跡	平安	123	大西土器遺跡	弥生
22	深沢古墳	・	56	猪セギヤ糞跡	古墳～奈良	90	洪道古墳跡	古墳～平安	124	猪日瀬跡	弥生～近世
23	枕板古墳	・	57	大法2・3号古墳	古墳	91	山田二ノ又西遺跡	・	125	猪南前城跡	・
24	枕板古墳	・	58	大寺ホエヌミヤ2号古墳	奈良・平安	92	山田二ノ又遺跡	・	126	原遺跡	弥生～近世
25	中沢古墳	・	59	大澤ホエヌミヤ2号古墳	・	93	山田三ノ又東遺跡	弥生～中世	127	古町内遺跡	弥生～平安
26	溝瀬古墳	・	60	タンガン糞跡	飛鳥	94	谷糞跡	近世	128	古町北遺跡	・
27	桜井古墳	・	61	トシ筋跡	古墳	95	伊門山社	近世	129	公儀の井戸	近世
28	翁行山1号古墳	・	62	長谷山1号古墳	平安	96	領上山遺跡	古墳～近世	130	公儀の井戸1	・
29	翁行山2号古墳	・	63	長谷山2号古墳	・	97	須江肥跡	平安	131	松本山北寺跡	中世・近世
30	母母古墳	・	64	東ノ1号古墳	古墳～中世	98	領江北遺跡	古墳～平安	132	勝福寺跡	・
31	大元神社古墳	・	65	植田石城跡	・	99	集妙寺遺跡	奈良～中世	133	勝寺寺跡	・
32	大元神社北古墳	・	66	寺中遺跡	古墳～平安	100	改田瓦見の城跡	中世	134	小山田遺跡	越後・中世
33	弓ヶ谷古墳	・	67	北野遺跡	古墳～中世	101	西ヶ内遺跡	弥生～中世	135	西谷遺跡	旧石器
34	小倉山古墳	・	68	江田遺跡	古墳～平安	102	無前丸遺跡	中世			

表1・図2 周辺の遺跡分布図・表

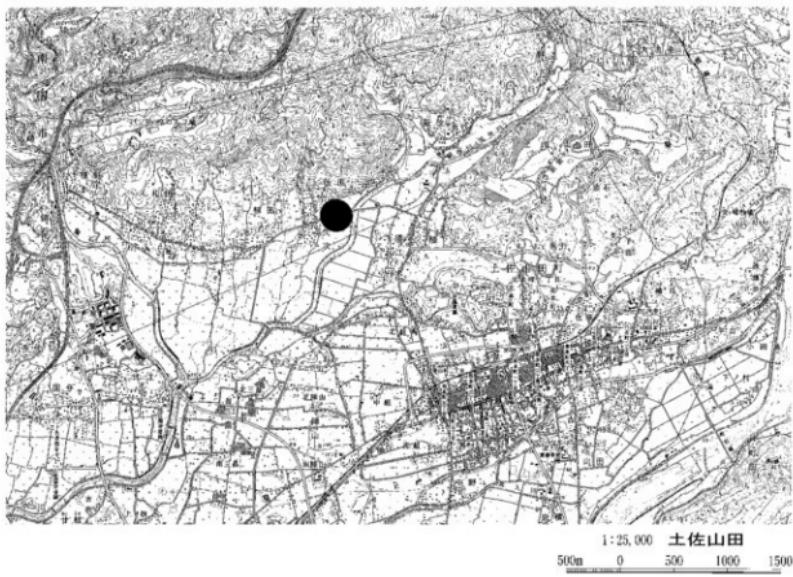


図3 改田神母遺跡位置図

第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法

1. 調査に至る経過

近年、農業の規模拡大等の整備政策が進められ、農業構造改善事業として、圃場整備事業が行なわれている。当上改田地区においても改良組合が設立され、山田北部地区土地改良、新改西部土地改良、新改中部土地改良と設立され、県営圃場整備事業が計画、実施されている。

新改西部土地改良区内は県下でも有数の埋蔵文化財包蔵地であり、土佐山田町教育委員会は工事計画との調整資料を得るために、平成8、9、10年度に文化庁国庫補助金により遺構の範囲確認のための試掘調査を実施し、基礎データを得た。その後、事業施工による埋蔵文化財の保存協議を高知県中央耕地事務所、新改西部地区土地改良区、土佐山田町教育委員会の三者で協議した。その結果、盛土工法等による計画変更がなされたが一部施工計画が変更できない箇所について、遺構の記録保存を図る調整協議がされ、記録保存のための発掘調査を実施した。

2. 調査の方法

試掘調査の結果により、水路、農道、削平部の調査区を設定し、耕作土を等の表土を主に重機により除去せを行ない、遺構検出面または、遺物包含層直上まで掘削を行なった後、人力による精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び土層等については、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて地区全体に4m方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の1を基本とし、必要に応じて10分の1の実測を行なった。

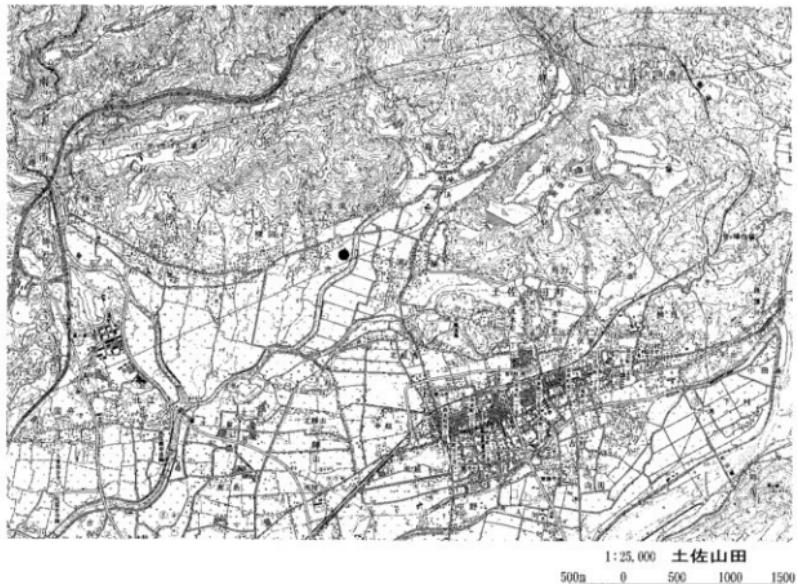


図4 後神母地区位置図



図5 後神母地区調査対象区域位置図



図6 後神母地区圓場整備施工図と調査区位置図

第Ⅲ章 遺構と遺物

1. 遺構

土坑

第2調査区SK-1

第2調査区のはば中央に位置し、ほぼ長方形の形を呈する。長さ約3.4m、幅約1.6cm、深さ約4.5cmを計る。遺構内から須恵器(実測番号3)の蓋が出土している。

溝跡

第1調査区SD-1

第1調査区を東西に走る溝跡で一部、第2調査区へ跨る。幅約1.4m長さ約17mを計る。溝跡からは須恵器(実測番号5)の楕円鉢質土器(実測番号3・26)の杯と蓋の破片と土鏡(実測番号32)が出土している。

第3調査区SD-1

第3調査区西側に東西に走る溝跡である。幅約1.2m、長さ約13m、深さ約40cmを計る。遺構内から須恵器(実測番号2)の杯が出土している。

第5調査区SD-2

第3調査区の東に位置し、南北に走る溝跡である。幅約80cm、長さ約8m、深さ約38cmを計る。遺構内より金属製品(実測番号35)が出土している。

2. 包含層遺物

第1分類 須恵器(杯)

1・2は須恵器の杯で、1は胎土の焼成は不良で全体的にやや摩滅している。底部より立ち上がり口縁部で外反し、受身はやや内向して立ち上がる。2は焼成は良好で底部より立ち上がり受身でやや内向して立ち上がる。

第2分類 須恵器(蓋)

3・4ともに杯の蓋で天井部は回転ヘラ削りとヘラ調整が見られる。口縁部はやや内向し先端は丸む。内面天井部は横ナデ調整が施され、鋼部にも横ナデ調整がみられる。

第3分類 須恵器(碗)

5・6ともに須恵器の碗で5は底部で焼成は不良で全体的に摩滅しており技法、調整は不明。6は碗は底部より外反して立ち上がり胴部でやや垂直になり口縁部で外反する。先端は丸む。

第4分類 土師器(碗)

8・9とも土師器の底部で精錬された粘土を使用している。高台をもち底部より緩やかに立ち上がる。

第5分類 土師器(高杯)

10・11・12ともに高杯の脚部と皿部の接合部分で、胎土は精錬された粘土を使用している。全体的に摩滅しており調整は観察できない。

第6分類 土師質土器(杯)

13~17は土師質土器の杯の底部の破片で胎土は精錬された粘土を使用し、焼成は良好である。底部は平底で底部外面には回転糸切りがみられ、底部内面より胴部内外にかけてロクロクによる調整である。

第7分類 土師質土器(Ⅲ)

18は土師質土器の小皿である。底部は平底で全体的に摩滅している。垂直に立ち上がり外反する。口縁部は欠損している。

第8分類 土師質土器(羽釜)

19は土師質の羽釜の羽口部分で荒い小石を含む胎土で内外ともに刷毛による調整が施されている。

第9分類 土師器(甕)

20~24は土師器の口縁部、底部の破片で精錬された粘土を使用している。7は胎土は荒い砂粒が混じり内外面ともに全体的に刷毛で横ナデ調整が施されている。胴部は垂直に立ち上がり口縁部下は張り出しがあり口縁部は直立し「く」字に外反して内側に立ち上がる。26は底部の破片で精錬された粘土を使用し外面には刷毛による調整が施される。

第10分類 土師質土器(甕)

25・26は甕の口縁部で胎土は砂粒を含む。焼成はやや良好で胴部から口縁部にかけて内外面ともに刷毛による横ナデ、縱ナデの調整が施されている。口縁部は「く」の字に外反する。

第11分類 弥生土器(甕)

27~30は甕の口縁部の破片である。27は胴部で垂直に立ち上がり口縁部は「く」の字に外反する内外面に刷毛による調整がみられる。30は甕の胴部で内面に刷毛目調整が見られ、外面には叩き目による調整がみられる。

第12分類 上鍤

31~34は土師質の土鍤で砂粒を含む胎土である。31は長さ6.8cm、穴の幅6cmである。32は長さ3.2cm、穴の幅6cmである。33は長さ3.2cm、穴の幅5cmである。34は長さ5cm、穴の幅3.2cmである。

第13分類 金属製品

35は鉄製品であるが用途は不明。36は銅製品で筆壺の蓋の部分である。

第14分類 砥石

粘板岩の砥石で片面に使用痕がみられる。



图7 改田神母遺跡後神母地区造構平面図

改田遺跡後神母地区遺物観察表

図 No.	算定 率%	東面 率%	出土地点 遺物・位置	分類	器種	法量 (cm)			出土	造成	色調	等級 成形・調査/その他
						口径	器高	底径				
1	1	8	II層 3区	1	灰陶器 件	(14.2)	(4.0)		精選された粘土	不良	内面：577/灰白 外面：7.577/灰白 断面：577/灰白	ヘラ刷り調整 底部外面横ナギヘラ刷り
2	19	20	SD-1 3区	1	灰陶器 杯	(16.0)			砂大2mm小石含む 粗粒砂	良	内面：577/灰 外面：7.577/灰 断面：577/灰	ロクロによる横ナギ調整
3	2	23	SI-1 1区	2	灰陶器 器(杯底)	(12.8)	4.9		精選された粘土	良	内面：10985/2灰黄褐 外面：7.575/3にぶい黄 断面：10985/2灰黄褐	ロクロによる調整 ヘラ刷り調整
4	18	31	II層 3区	2	灰陶器 器(杯底)				精選された粘土	不良	内面：7.577/灰白 外面：577/灰白 断面：7.577/灰白	
5	28	21	SD-1 3区	3	灰陶器 碗				精選された粘土	小良	内面：7.575/灰白 外面：575/灰白 断面：575/灰白	底部に削除系切り
6	21	32	II層 3区	5	灰陶器 碗	(15.4)			精選された粘土	良	内面：7.575/灰 外面：7.575/1灰 断面：7.575/1灰	ロクロ調整
7	20	36	II層 3区		灰陶器 碗				精選された粘土	良	内面：765/灰 外面：7.575/3灰 断面：7.575/3にぶい灰	
8	37	14	II層 3区	4	土陶器 碗(底部)				精選された粘土	不良	内面：10985/4灰黄褐 外面：7.575/4灰黄褐 断面：10985/4灰黄褐	
9	35	25	II層 3区	4	土陶器 碗(底部)				精選された粘土	不良	内面：10985/4にぶい黄褐 外面：7.575/4にぶい黄褐 断面：10985/4にぶい黄褐	
10	12	12	II層 3区	5	土陶器 高杯(脚部)				精選された粘土	不良	内面：10985/4にぶい黄褐 外面：7.575/4灰黄褐 断面：7.575/4灰黄褐	
11	13	23	II層 3区	5	土陶器 高杯(脚部)				精選された粘土	不良	内面：7.577/2灰黄 外面：7.577/2灰白 断面：7.577/2灰白	
12	11	19	II層 3区	5	土陶器 高杯(脚部)				精選された粘土	不良	内面：7.577/2灰 外面：10985/6灰黄 断面：10985/6灰黄	
13	3	17	SD-1 1区	6	土陶質土器 杯	13.5	4.0		精選された粘土	やや良	内面：7.575/6灰 外面：7.575/6灰	ロクロによる調整 底部に削除系切り
14	33	1	II層 3区	6	土陶質土器 杯(底部)			7.4	精選された粘土	やや良	内面：7.575/6灰 外面：7.575/6灰 断面：7.575/6灰	ロクロによる調整 底部に削除系切り
15	31	15	II層 3区	6	土陶質土器 杯(底部)			9.6	精選された粘土	やや良	内面：10985/3灰黄褐 外面：10985/3灰黄褐 断面：10985/4灰黄褐	ロクロによる調整
16	36	16	II層 3区	6	土陶質土器 杯(底部)				精選された粘土	やや良	内面：7.575/7灰 外面：7.575/7灰 断面：7.575/7灰	
17	22	10	II層 3区	6	土陶質土器 杯(底部)			6.8	白色で輪郭	やや良	内面：10985/4灰黄褐 外面：10985/4灰黄褐 断面：10985/4灰黄褐	
18	34	6	II層 3区	7	土陶質土器 小皿	1.8	7.0		粗砂質	やや良	内面：7.575/6灰 外面：7.575/6灰 断面：7.575/6灰	
19	25	20	II層 3区	8	土陶質土器 器皿				小石を含む	やや良	内面：7.575/7灰 外面：7.575/7灰 断面：7.575/7灰	
20	38	7	II層 3区	9	土陶器 尖(口縁部)	(26.3)			小石を含む	不良	内面：10985/4にぶい灰 外面：575/4灰 断面：2.575/4灰灰	
21	24	34	II層 3区	9	土陶器				小石を含む	良	内面：10985/4にぶい灰 外面：10985/4にぶい灰 断面：10985/4にぶい灰	
22	23	11	II層 3区	9	土陶器 (底部)			(16.2)	精選された粘土	良	内面：7.575/4灰黄褐 外面：7.575/4にぶい灰 断面：10985/4にぶい灰	底部より上にかけてヘラ削影
23	25	26	II層 3区	9	土陶器 (底部)				精選された粘土	良	内面：7.575/4にぶい灰 外面：7.575/4にぶい灰 断面：10985/4にぶい灰	複数削影、底部より上の方向 に削毛目削影
24	27	12	II層 3区	9	土陶器 (口縁部)	19			精選された粘土	やや良	内面：578/6灰 外面：578/6灰 断面：578/6灰	
25	29	24	II層 3区	10	土陶質土器 (口縁部)	13.7			砂粒を含む	やや良	内面：7.575/7灰 外面：10985/2灰黄褐 断面：2.575/7灰灰	

固 定 箇 所 No.	実測 箇 所 No.	出土地点 と遺物 名	分類	剖面	法量 (cm)			粘土	焼成	色調	軽微 成形／調整／その他
					口径	深さ	底径				
26	30	28	SD-1 1区	10 土器質土器 窓 (口縁部)	34.6			砂粒を含む	やや良	内面：10BRT7/4に近い黄褐色 外周：10BRT4/1褐色 底面：10BRT7/4に近い黄褐色	口縁部下に横の筋毛目と横削 毛目の調整
27	8	37	Ⅱ層 3区	11 強化土器 窓 (口縁部)	8.45			小石を含む	やや良	内面：7.5TR6/3浅黄褐色 外周：7.5TR7/4Cに近い豊 底面：7.5TR8/4灰	口縁部下に横削毛目の調整
28	10	27	Ⅱ層 3区	11 強化土器 窓 (口縁部)	23.4			小石を含む	やや良	内面：7.5TR6/6灰 外周：7.5TR6/6灰 底面：7.5TR8/6灰	
29	7	9	Ⅱ層 3区	11 強化土器 窓 (口縁部)	23.4			小石を含む	やや良	内面：7.5TR6/6灰 外周：7.5TR6/6灰 底面：7.5TR8/6灰	口縁部下に横削毛目の調整
31	15	3	SD-2 2区	12 土器	全長 6.9	全幅 2.5	全厚 2.1	精緻された粘土	良	内面：10BRT7/4に近い黄褐色 外周：10BRT7/4に近い黄褐色 底面：10BRT7/4に近い黄褐色	
32	17	4	SD-1 1区	13 土器	全長 3.6	全幅 1.4	全厚 1.2	砂粒を含む	やや良	内面：10BRT7/4褐色 外周：7.5TR6/4灰 底面：7.5TR5/4灰	
33	16	5	Ⅱ層 3区	13 土器	全長 3.4	全幅 1.9	全厚 1.8	砂粒を含む	やや良	内面：7.5TR8/4浅黄色 外周：7.5TR8/4浅黄色 底面：7.5TR8/4浅黄色	
34	14	29	Ⅱ層 3区	12 土器	全長 4.9	全幅 1.8	全厚 1.3	砂粒を含む	やや良	外周：10BRT7/4に近い黄褐色	
36	9	25	Ⅱ層 3区	11 強化土器 窓 底部				砂粒を含む	良	内面：7.5TR5/3に近い褐 外周：7.5TR6/4Cに近い褐 底面：10BRT6/4灰	底面は叩き目調整
35	4	22	SD-2 2区	14 金属製品	全長 (5.7)	全幅 2.2	全厚 1.7				鐵製品
36	5	18	Ⅱ層 3区	14 金属製品	全長 4.2	全幅 2.6	全厚 2.5				鐵製品
37	6	2	Ⅱ層 3区	15 磨石	全長 11.1	全幅 4.8	全厚 2.9				

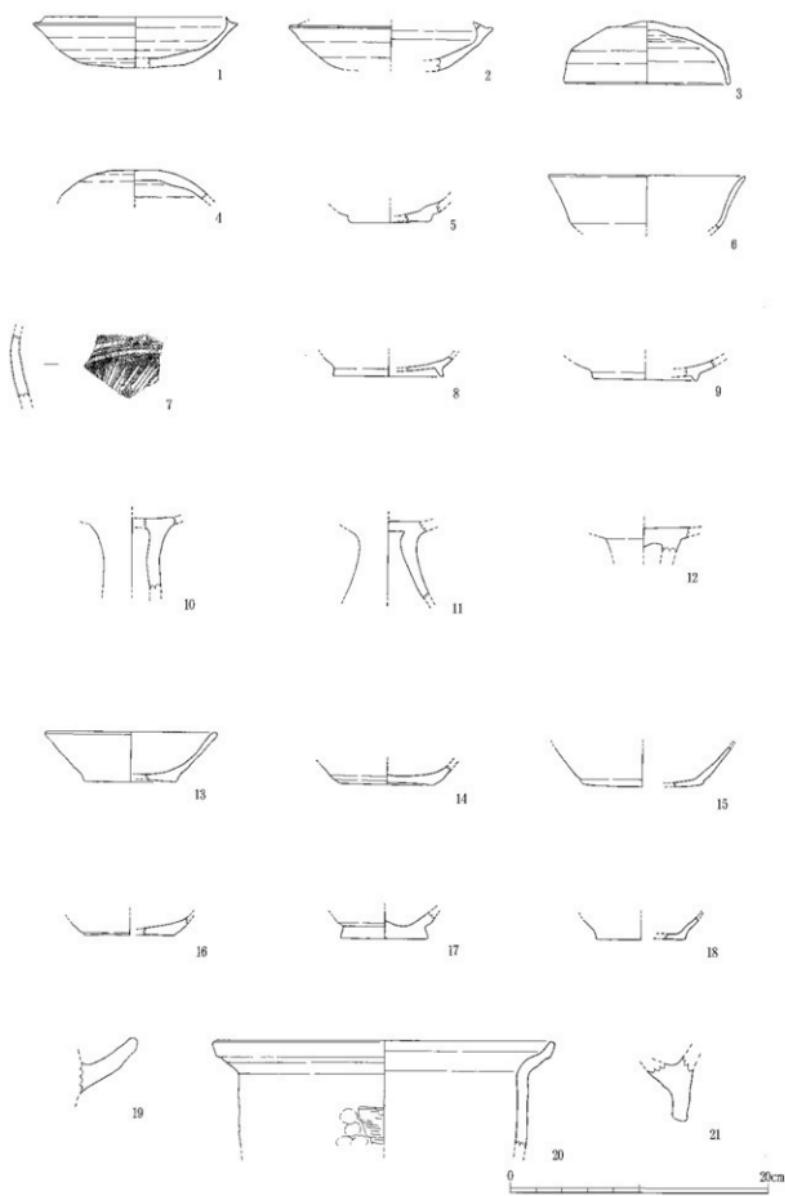


図8 出土遺物実測図（その1）

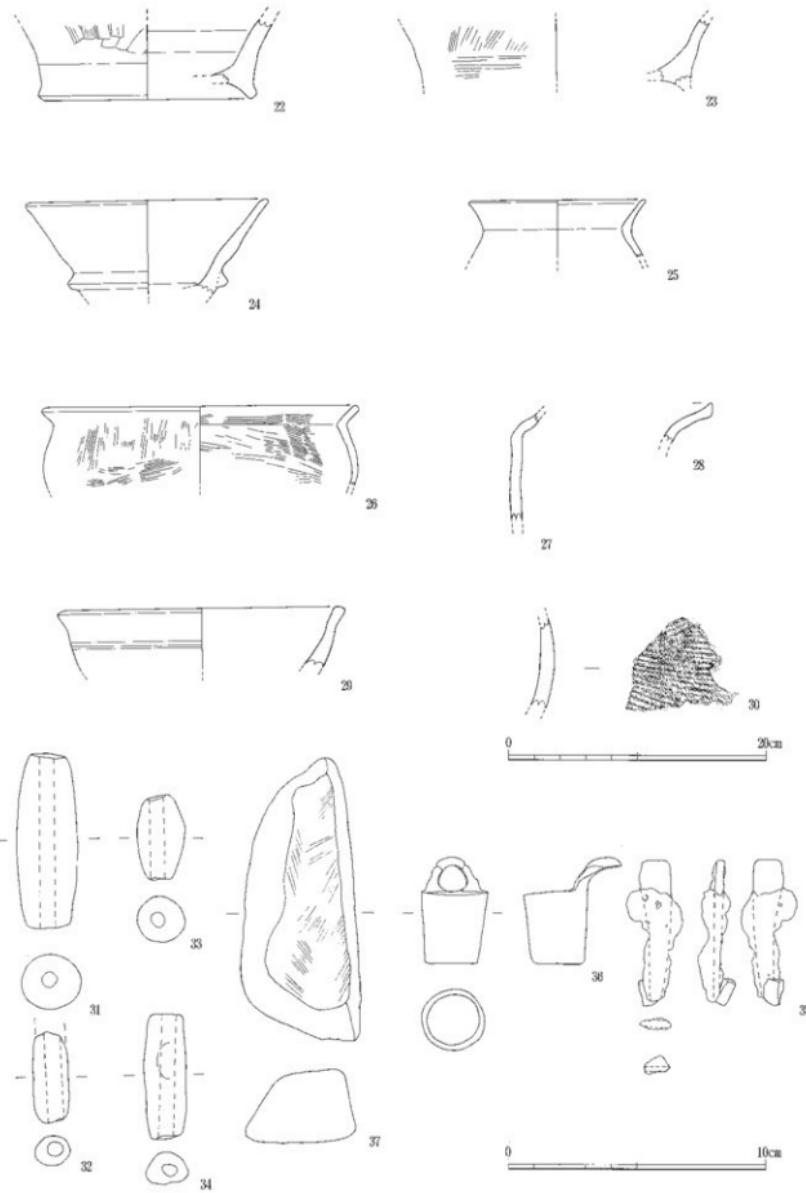


図9 出土遺物実測図（その2）

第IV章 総括

改田神母遺跡の調査区は新改川右岸の中位段丘に立地する。過去の県営開場整備事業に伴う試掘調査により周辺部には弥生時代後期から中世にかけての遺構、遺物が確認されている。特に中位段丘に遺跡が立地しており、また遺跡の範囲も広範囲に及ぶ。

本地区の調査において古墳時代から中世に至る遺構、遺物が確認された。また同地区的遺物包含層からは弥生時代から近世までの土器、金属製品等が出土している。

古墳時代の遺構としては7世紀の須恵器が出土した土坑が1基、古代の遺物が出土した溝跡が1条、また中世の遺物が出土した遺構は溝跡2条、柱穴がある。出土遺物のうち弥生土器は隣接する弥生時代から中世にかけての遺跡である久次遺跡の周辺部であることから当地区に弥生時代の遺構の存在を示唆するものである。

古墳時代の土坑1基からは須恵器の蓋、杯が出土している。遺構の形状、出土遺物から土坑墓とも考えられる。

古代の遺構では須恵器(碗、壺)、土師器(碗、高杯)などの遺物を伴う溝跡が確認された。

中世の遺構としては溝跡、柱穴が確認されているが、建物として平面復元は不可能である。また当地区は新改川(国分川水系)に近接しており土錘の遺物も見られる。

写真図版



圃場整備前の遺跡周辺航空写真

遺構 1・写真 2



遺跡全景



発掘調査区全景



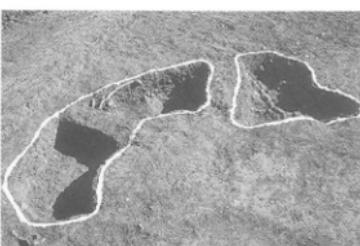
1・2区 遺構検出状況



1区 遺構検出状況



1・2区 遺構完掘状況



2区 遺構完掘状況



1・2区 SD-1、SK-1遺構完掘状況



2区 SD-1遺構完掘状況



2区 SK-1遺構完掘状況



2区 SK-1遺物出土状況



2区 SK-1遺物出土状況



3・4区 遺構完掘状況



3区 遺構完掘状況



3区 SD-1完掘状況



3区 遺構完掘状況



4区 遺構完掘状況

遺物 1・写真 4



1



2



3



4

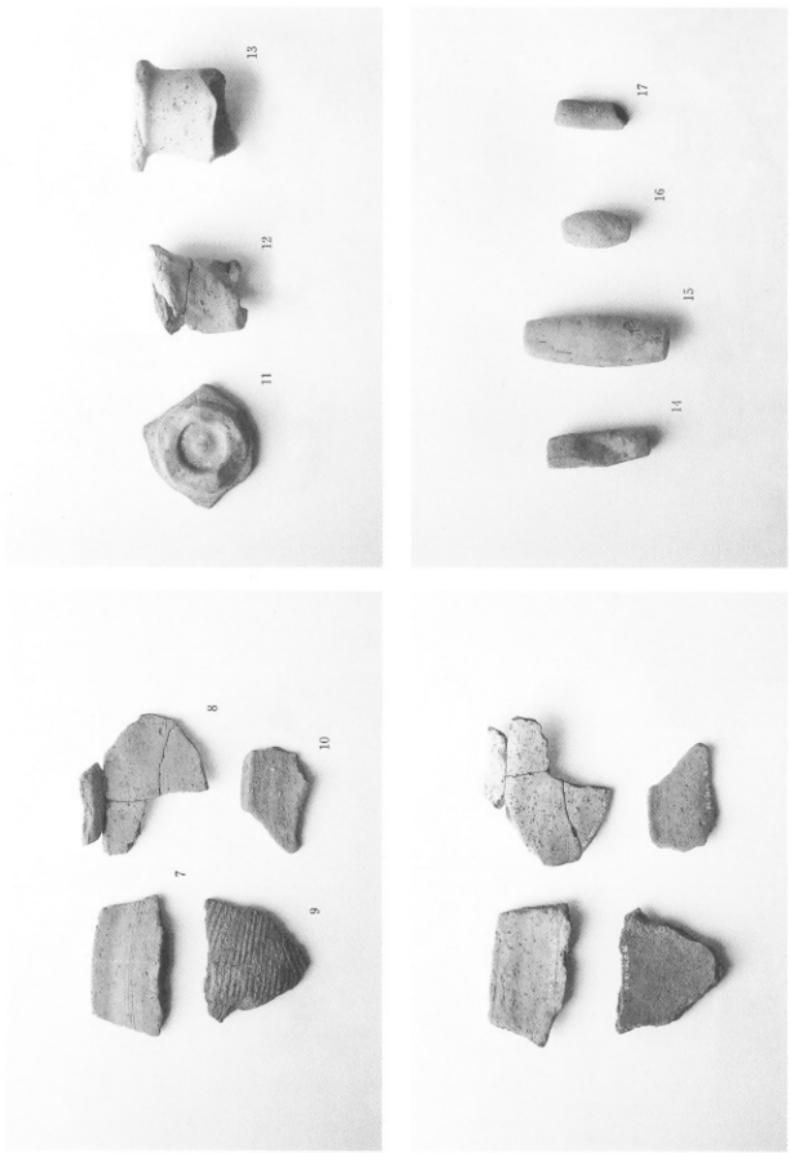


5

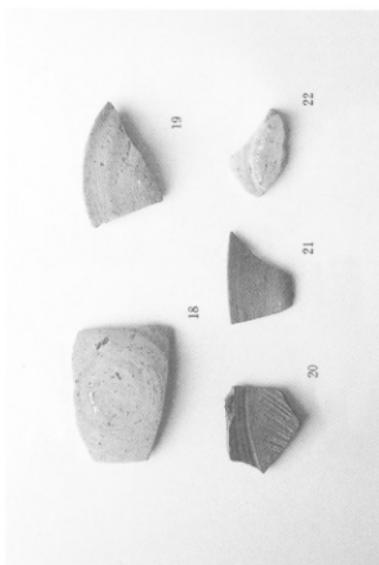
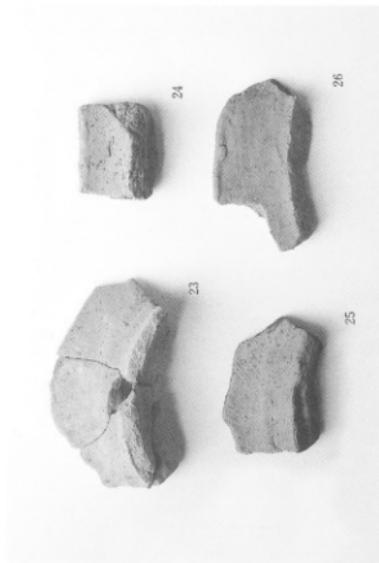


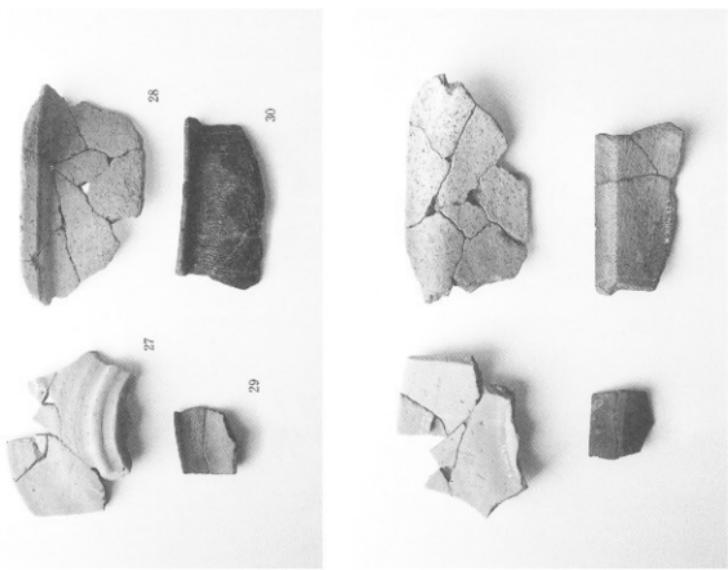
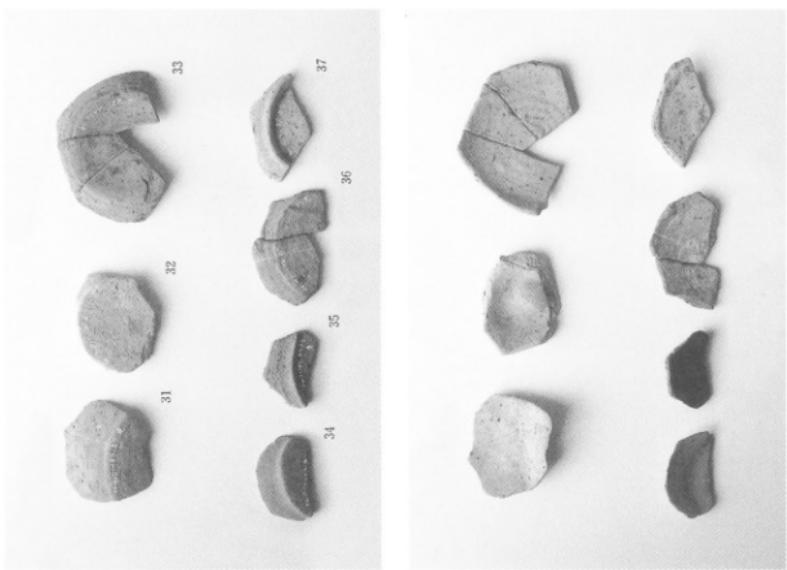
6





遺物 3・写真 6





改田神母遺跡

トカリ山地区

新改西部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

例言

1. 本書は、土佐山田町教育委員会が平成7年度に実施した新改西部地区県営圃場整備事業に伴う改田神母遺跡発掘調査報告書である。

2. 改田神母遺跡は、高知県香美郡土佐山田町上改田字小トカリ山127-1番地他に所在する。

3. 当該地の発掘調査は、平成7年9月1日から平成7年10月20日、調査面積500m²である。引き続き資料整理・報告書作成を平成15年度に行った。

4. 調査体制は以下の通りである。

調査主体 土佐山田町教育委員会

調査事務 土佐山田町教育委員会

平成15年度

教育長 原 初恵

社会教育課長 山崎 泰広

調査事務 小林 麻由

調査担当 中山 泰弘

5. 発掘調査にあたっては、地元久次、上改田地区の方々、土佐山田町文化財保護審議会、新改西部土地改良、高知県中央東耕地事務所の協力を得た。また、現場発掘調査・遺物整理・図面作成業にあたって、下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

現場作業員 大塚俊明、今井春恵、佐々木龍男、竹崎芳子、山本花子、山下厚子、井上郁雄、山崎政子、山本冴子、池知誠男、小松一仁、池 宣弘、吉川 競

整理作業員 伊藤 仁、中村千代、岡林 光、竹崎寛将、井上博恵、研川英征、宗石祥一、高橋加奈

6. 本書の執筆は中山が行なった。

7. 出土遺物及び調査資料については、土佐山田町教育委員会が保管している。尚、遺物についての注記は、「95-40YSK」を使用する。

8. 遺構の名称については、SB(掘立柱建物)、ST(竪穴状遺構)、SK(土壤)、SD(溝状遺構)、SE(井戸)、SX(性格不明土壤)、P(柱穴又はピット)を使用する。

第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法

1. 調査に至る経過

近年、農業の規模拡大等の整備政策が進められ、農業構造改善事業として、圃場整備事業が行なわれている。当新改地区においても改良組合が設立され、山田北部地区土地改良、新改西部土地改良、新改中部土地改良と設立され、県営圃場整備事業が計画、実施されている。

新改西部土地改良区内は県下でも有数の埋蔵文化財包蔵地であり、土佐山田町教育委員会は工事計画との調整資料を得るために、平成8、9、10年度に文化庁国庫補助金により遺構の範囲確認のための試掘調査を実施し、基礎データを得た。その後、事業施工による埋蔵文化財の保存協議を高知県中央耕地事務所、新改中部地区土地改良区、土佐山田町教育委員会の三者で協議した。その結果、盛土工法等による計画変更がなされたが一部施工計画が変更できない箇所について、遺構の記録保存を図る調整協議がされ、記録保存のための発掘調査を実施した。

2. 調査の方法

試掘調査の結果により、水路、農道、削平部の調査区を設定し、耕作土を等の表土を主に重機により除去せず行ない、遺構検出面または、遺物包含層直上まで掘削を行なった後、人力による精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び土層等については、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて地区全体に4m方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の1を基本とし、必要に応じて10分の1の実測を行なった。

第Ⅲ章 遺構と遺物について

本調査前に任意のトレーニチを設定し、試掘調査を行い、柱穴、溝跡を確認し、随時、調査区の拡張を行い本調査を実施した。

調査区2区においてはビットを数個検出したが遺物は判別不明の土器片が出土した。調査区の3区においては規模の大きな溝跡を検出した。全長10m、溝幅は北側で1.5m、下流の南側で幅1.5mの規模を有する。埋土中より弥生土器、須恵器、土師器、土師質土器、青磁、備前焼の小破片が数十点出土したが図示できるものは無かった。

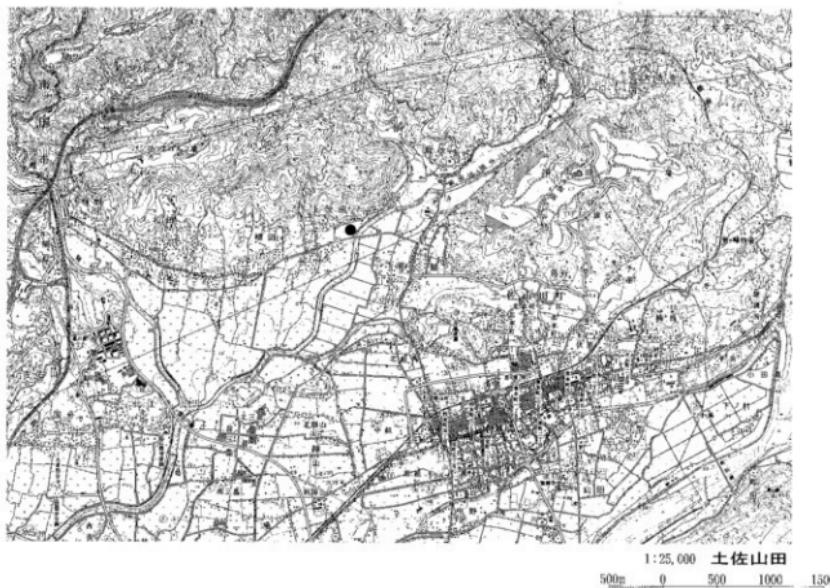


図10 トカリ山地区位置図



図11 トカリ山地区調査対象区域位置図

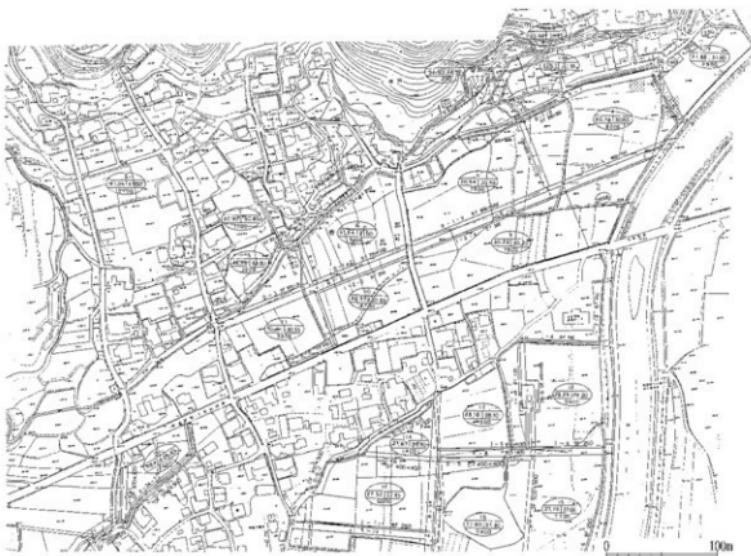


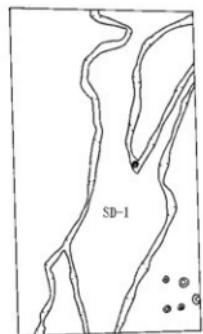
図12 トカリ山地区圃場整備施工団と調査区位置図



調査区1



調査区2



調査区3



図13 トカリ山地区遺構平面図

第Ⅳ章 総括

上改田遺跡トカリ山地区の調査において遺物を伴わない柱穴が数個、と中世の溝跡が2条確認された。遺物包含層及び溝跡より弥生土器、須恵器、土師器、土師質土器、青磁、備前焼の細片が出土したが図示できる遺物はない。

検出された遺構の溝跡は山側の北側から南側に向けて勾配があり南側に向けて溝跡の幅は広がり持つプランを有する。

附編

古代の長岡郡登利郷について

源順の編集「和名類聚抄」にみえる郷の一つである土佐国「登利郷」の所在については土佐山田町新改説と高知市十市・三里説が從来論じられていたが近年、朝倉義景氏^①の研究により『長宗我部地検帳』の記載の小字及び現在、土佐山田町植、上改田地区の小字から登利郷の所在について新改地区に推定されている。同氏の研究によれば「和名類聚抄」による訓註は「島加利」とあることからトカリを手がかりとして江戸時代の鹿持雅澄は長岡郡新居村と蚊居田村の境にある「トガリ山」の地名からこの地を推定した。古田東伍博士は十市・三里方面を推定地とされた。近年、朝倉義景氏は登利郷は伊勢本、東急本では「島加利」のみであるが高山寺本には「安賀里」となっており、このことから両方の呼び名があったことを確認された。今日、土佐山田町には新改に隣接する植地区において小字「アカリ」が地検帳、現行小字にも所在が確認でき長岡郡登利郷は土佐山田町新改に比定されることが有力となった。

この二つの名称地名については、新改、須江、植、上改田、大法寺、入野に分布する古代の須恵器生産にかかる「登り窯」との関係を指摘せられている。

註

(①)「和名類聚抄」にみられる土佐国郷の歴史地理学的研究－長岡郡登利郷について－ 朝倉義景「土佐山田史稿」第19号1994.12



図14 土佐山田町新改地区小字図 ①トカリ山②アカリ

写真図版



1区 全景



1区 遺構完掘状況



TR-1 遺構完掘状況



3区 発操作業状況



3区 遺構完掘状況



3区 遺構完掘状況



3区 遺構完掘状況



3区 遺構完掘状況

報告書抄録

ふりがな	かいだいげいせきうしりいげちく							
書名	改田神母遺跡後神母地区							
副書名	新改西部地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書							
卷次	I							
シリーズ	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第19集							
編著者名	中山泰弘							
編集機関	土佐山田町教育委員会							
所在地	〒782-0017 高知県香美郡土佐山田町岩積365-1 TEL(0887)53-3111							
発行年月日	西暦2003年12月26日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	。	。			
改田神母遺跡 後神母地区	高知県香美郡 土佐山田町 上改田 字後神母 18番地	393231	190033	33° 37' 038"	133° 40' 102"	試掘調査1次 19940914 ~ 19941216	1,000m ²	新改西部地区 県営圃場整備 事業に伴う 発掘調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
改田神母遺跡	集落跡	古代・中世	ピット、溝跡、土坑	須恵器、土師器、 土師質土器				

報告書抄録

ふりがな	かいだいげいせきとかりやまちく							
書名	改田神母遺跡トカリ山地区							
副書名	新改西部地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書							
巻次	II							
シリーズ	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第22集							
編著者名	中山泰弘							
編集機関	土佐山田町教育委員会							
所在地	〒782-0017 高知県香美郡土佐山田町岩積365-1 TEL(0887)53-3111							
発行年月日	西暦2003年12月26日							
ふりかな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'."	東経 °'."	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
改田神母遺跡 トカリ山地区	こうちけんかみぐん さとうやまとだいし 土佐山田町 かみやまとだいし 上改田 あがだい 字トカリ山 127-1番地	393231	190033	33° 36' 228"	133° 40' 184"	試掘調査1次 19951023 + 19951123	800m ²	新改西部地区 県営圃場整備 事業に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
改田神母遺跡 トカリ山地区	集落跡	古代・中世	溝跡		弥生土器、須恵器、 土師器、土師質土器、 青磁、備前焼			

改田神母遺跡
後神母地区・トカリ山地区

新改西部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003年12月26日

編集・発行 高知県土佐山田町教育委員会

高知県香美郡土佐山田町岩積365-1

電話 (0887)53-3111 (代)

印刷 川北印刷株式会社